

# インドネシアで新事業

## 昭和興産 汎用樹脂輸入など

【ジャカルタ】岩崎淳 昭和興産は、インドネシアで新規ビジネスを相次ぎ立ち上げる。界面

活性剤などを主力商材として事業展開するなか、新たに中東から汎用樹脂など石油化学品の輸入を

開始する。衛生材分野でフィルムを商材に加えるほか、繊維用薬剤関連の販売などにも着手する。

幅広く事業を手がけ成長を加速する。インドネシアでは2014年に設立した現地法人の昭和興産インドネシアが界面活性剤、ウレタン原料、塗料原料などの輸入販売を中核事業として展開。消費財などの市場成長を取り込み、販売

量が増加している。取り扱う商材や事業の幅を広げ事業を拡大する方針。新たな商材として汎用樹脂などの中東品をインドネシアで販売する。安定調達の一環で新しい供給ソースを求め、需要家に、価格競争力の高い商材として売り込む。

織維用薬剤関連も新規に立ち上げる。日系メーカーがインドネシアで委託生産に乗り出す予定で、市場開発や販売・物流業務などを担う計画。昭和興産インドネシアは、為替変動などのリスクヘッジのため、インドネシア品の輸出にも注力。

スマートラ島やカリマンタン島などで産出される天然樹脂タマール、天然ゴムやラテックスなど商材の取扱量が増加している。タマール樹脂は塗料やインキの原料などに用いられ、粘着付与機能を有する。将来的に加工を手がけ付加価値を高めて供給することも視野に入れている。タイ拠点で大目事業拡大を目指す。グループ間連携も深めている。タイ拠点で大目化学工業、フォルモサ・オーガニック・ケミカルとの協業で生産する金属石けんをインドネシアで販売。着実に実績を伸ばしている。